論文番号　１５４

担　当

札幌医科大学　医学部　薬理学講座

題　名（原題／訳）

Pentoxifylline improves short-term survival in severe acute alcoholic hepatitis: A double-blind, placebo-controlled traial.

Pentoxifylline は重症急性アルコール性肝炎の短期生存率を改善する: 二重盲検、プラセボ対照試験

執筆者

Akriviadis E, Botla R, Briggs W, Han S, Reynolds T, Shakil O

掲載誌（番号又は発行年月日）

Gastroenterology 119: 1637-1648 (2000)

キーワード

Pentoxifylline、腫瘍壊死因子(TNF)、アルコール性肝炎、生存率、プラセボー対照試験

要　旨

先の予備的研究で、重症急性アルコール性肝炎に対して腫瘍壊死因子(TNF)阻害薬の pentoxifylline (PTX)が有益な効果を有することを示唆した。本研究はこの薬物処置について大規模患者コホートで評価するため行った。重症急性アルコール性肝炎患者(Maddrey 判別因子≧32)、101 名で PTX (400 mg, p.o., 1 日 3 回)投与と対照プラセボ投与の 4 週間・二重盲検無作為化試験を行った。試験評価は(1)短期生存率と(2)肝腎症候群の進展に対する PTX の効果で行った。結果は、PTX を投与された 49 名の患者中 12 名(24.5%)とプラセボ投与患者 52 名中 24 名(46.1%)が入院中に死亡した。肝腎症候群が死亡原因なのは、それぞれ 6 名(50%)と 22 名(91.7%)であった。3 つ(年齢、クレアチニンレベル、PTX 処置)の変数は独立して生存率に関連していた。TNF 値は生存率の予見因子とならなかったが、試験期間中に、両被験群(プラセボ群・PTX 投与群)ともに、生存者群と比較して非生存者群で著しく上昇していた。結論として、PTX 処置は重症アルコール性肝炎の患者の短期生存率を改善する。この改善効果は肝腎症候群の進展の危険性を有意に低下することと関係していると思われる。入院治療期間の TNF レベルの上昇は死亡率の上昇と関連している。